



# 芭蕉祭

平成25年度(第67回)

俳聖松尾芭蕉の業績を称え遺徳を偲ぶ「平成25年度(第67回)芭蕉祭」が、10月12日、上野公園を中心に行われました。

芭蕉翁銅像、文学碑への献花、献菓のあと、上野公園内の俳聖殿前で厳かに式典が行われました。式典は、「芭蕉祭子ども合唱団」による「芭蕉さん」の斉唱で始まり、献詠俳句特選句の披露、懸額除幕、各受賞者への表彰などが行われました。

今年の献詠俳句は、全国各地・世界各国から、一般の部に9,002句、テーマの部に1,872句、児童・生徒の部に25,353句、連句の部に166巻、英語俳句の部に20カ国から457句の応募がありました。各部門の特選句と、一般の部、連句の部で入選した市内の皆さんの句を紹介します。

【問い合わせ】 企画課 ☎22・9621 FAX22・9628

## 一般の部 特選

### ▼有馬朗人 選

兵馬備三千閑し石榴囀む  
風誘ふよもつひらさか花辛夷  
名古屋市 加藤利尾  
長浜市 片桐傳一郎

### ▼稲畑汀子 選

噴煙を呑みこみ雲の峰五岳  
被災地に声を落して鳥帰る  
大分市 高柳和弘  
仙台市 小島左京

### ▼茨木和生 選

奥能登の海鳴り高き翁の忌  
浜木綿や潜水はけふ喪服着て  
神戸市 本村幸子  
松阪市 池田緑人

### ▼宇多喜代子 選

春蚊出づいち日留守の柱より  
麦秋や老駟鋼となりにけり  
神奈川県 石原美枝子  
笠間市 水柿とし

### ▼岡崎光魚 選

はんざきの寡黙にわれら及ばざる  
涼しさや紙垂折る巫女の白き指  
明和町 木戸口真澄  
江南市 柴田蒼生子

### ▼小澤實 選

我は海の子ざく切りに海鞘を食ふ  
樹上にて抱き合ふ小猿雪降れば  
松本市 田中敦子  
杉並区 嶋田恵一

### ▼鍵和田袖子 選

金釘流なれど賀状は心して  
遺骨なき墓ざわざわと終戦忌  
仙台市 小島左京  
志摩市 廣波青

### ▼金子兜太 選

心底に原爆の雲八月や  
河骨の青の匂ひよ母の足裏  
御殿場市 高橋賀容子  
高崎市 堤美代

### ▼倉田紘文 選

万難を排し泰然阜月富士  
同郷に生まれし妻と草矢打つ  
和歌山県 新谷慶洲  
明和町 木戸口真澄

### ▼塩田敷柑子 選

戦国の城址寂れて秋の蝉  
遷座終え風土記の里に風薫る  
伊賀市 山森桂花  
赤穂市 田中花楓

### ▼棚山波朗 選

俳聖殿前に弾めり雀の子  
尾張旭市 豊田紀久子

テーマの部 特選

▼片山由美子 選

曉に星のまたたく奥白根  
水打つて一番星を呼び出せり  
小平市 首藤知茂  
川越市 浜田はるみ

連句の部 特選

▼臼杵游児 大野鶴士 白根順子 西田青沙 共選(五十音順)

※半歌仙『煤はきは』の巻 金沢市 密田妖子 芭蕉翁  
煤はきは己が棚つる大工かな  
採手しきりに笑まふ掛乞

野良猫の身過ぎの技のすばやくて  
大草原を吹き分ける風  
密田妖子 杉本聰

更待へ人生談義果てしなく  
糸瓜の水を珍重の刀自  
村戸弥生

夕空に乾ききつたる鴟の贄  
太るのいやとすねるカマトト  
妖子 弥生 聰

世之介のやうな男と修羅に住み  
夢のお告げを解きし神主  
弥生 聰

このところ株価先行き読みきれず  
から回りして墓穴掘る破目  
妖子 弥生 聰

白玉の湯に浮き上がる月の夜  
託ち顔してビール酌む父  
妖子 弥生 聰

隣からラジオ体操鳴り渡る  
この横町の北は洛外  
妖子 弥生 聰

野仏を慈しむかに花吹雪  
草に寝ころび惜しむゆく春  
妖子 弥生 聰

平成二十五年六月十五日 満尾 Eメール文韻



英語俳句の部 特選

Bleached by the sunlight  
though its roots are in the dark  
wheat turns into gold  
(根の昏し日浴びて麦の金色に)  
Priscilla H.Lignori  
(プリシラ エイチ リニョーリ) アメリカ合衆国

chickweed-  
simple and honest  
Father lived in Showa Era  
(はこべらや昭和の父の簡と誠)  
福岡県 林正子



▼西村和子 選  
朝市を抜ける海風鯨日和  
生駒市 横田明美

雨あがり鉄砲狭間蝶を吐く  
熊野市 平谷僱司

▼長谷川權 選  
島々の灯の消え瀬戸の月朧  
北九州市 佐藤静香

寒鯉の眼の金環うごきたる  
菊川市 田中彦一

▼星野椿 選  
野ざらしや今も山路にすみれ咲く  
草津市 山根悠謳

▼正木ゆう子 選  
コスモスの句碑に朝夕寺の鐘  
ブラジル 香山和榮  
伊賀市 北村みち

▼三村純也 選  
一門と言ふ誇りあり虚子祀る  
伊賀市 北村みち

渡りてふ速さに鷹の消えにけり  
中野市 小島龍爾

▼宮田正和 選  
形代に書きし我が名をわが畏る  
周南市 藤井浅夫

下校児のプールに濡れし髪のまま  
津市 山口一世

壺焼の千切れたる尾をのぞきけり  
神戸市 杉岡吉風

真日に立つ蘇鉄雄花や摩文仁丘  
那覇市 桃原美佐子

母の日やいのち惜しめと子に抱かる  
伊賀市 森岡了子

【幼稚園・保育園・小学校一〜三年】

▼下村哲朗 谷本昌子 濱地和恵 藤井充子

おいかけたとかげのしっぽでおおさわぎ  
 プールにねもぐるとあしがいつぱいだ  
 さわれたよななつのほしのてんとうむし  
 さんぐらすにいちゃんパパにしているよ  
 ぎんやんまおいかけのあみこえていく  
 あせだくのにんじやのかっこうれしそ  
 かまぎりはにんじやのように早走り  
 プールでねママが先生クローラだ  
 したたりは山からながれふどうさん  
 花火見る横一列にならんだよ  
 教室でかえったちようちよ空をとぶ  
 カマキリの赤ちゃんもカマフリ上げる

山村勝子 共選 (五十音順)

府中保育園 岡本育実  
 三田保育園 南畑祐心  
 白鳳幼稚園 池田杏樹  
 上野西小一年 まえた あいな  
 上野西小一年 さわ りようすけ  
 府中小一年 にしで りの  
 府中小二年 ふじ林 かなと  
 河合小二年 ダ・シルバ・エロイザ  
 大山田小二年 吉永聖哉  
 三田小三年 喜多修平  
 島ヶ原小三年 町井志帆  
 上野西小三年 前田久斗



【小学校四〜六年】

▼喜多富美 永井みよ 東構東子 福山良子 横田綜市 共選 (五十音順)

せみしぐれけんばんで音当ててみる 友生小四年 関下穂  
 座ぜん組む寺へ雷なつてくる 神戸小四年 福壽文菜  
 かげろうがゆれてる午後のグラウンド 新居小四年 竹腰智也  
 風穴のすずしい風をほけつとに 友生小五年 増田祐作  
 山じゅうが夕焼けしているまた明日 花垣小五年 上窪紗英  
 入り口が桃のにおいのマーケット 三田小五年 廣畑百花  
 セミの声森のおくから朝日から 秋田県雫川小六年 白鳥わか  
 朝練に自転車とばす霧の道 上野西小六年 奥村翔  
 砂浜をはだしでさがす海の家 神戸小六年 斉竹渚

【中学校・高等学校】

▼北村保 北村みち 佐々木絳子 西村八洲子 松本ちい 共選 (五十音順)

風たちが枯れ木をゆらし泣いている 東松島市鳴瀬未来中一年 田中初春  
 この暑さたえてたたずむ芭蕉像 城東中一年 中森颯佑  
 梅雨におう芭蕉の故郷伊賀上野 奈良県田原本町北中一年 森本なつ美  
 梅雨の星葉っぱの上のしづく落ち 川越市福原中二年 福田路  
 次々と麦茶が売れる土曜市 直方市直方第三中二年 小島陸  
 軽トラにねころんで見た流れ星 川越市福原中二年 木根輝人  
 噴水と光を浴びる子供達 川越市福原中三年 貞松菜々子  
 富士の山横目にそうめんひとすすり 上野南中三年 奥本ゆう佳  
 廃校の土手に群れてる百合の花 上野南中三年 菊澤和紗  
 向日葵や光を信じ復興す 諫早市諫早農業高校二年 廣田智恵子  
 東西へ雲を引き裂く蝉の声 諫早市諫早農業高校三年 林田憲悟



一般の部 入選

有馬朗人 選

二上の女峰の肩の春の雪  
逆立ちの好きな金魚を貰ひけり  
木興町 森井章恵  
猪田 中井康子

稲畑汀子 選

雨あとの山氣の磨き上ぐ銀河  
これ程に舞ひて音なき蚩かな  
山畑 西田扇女  
北村みち  
万緑が山湖の色を深めけり  
佐那具町 西澤与志子  
思ひ出すこんな蚩の飛ぶ夜は  
佐那具町 子日康子

茨木和生 選

牛飼の軒より暮れて蚩飛ぶ  
禰宜に泥飛んで始まる御田植祭  
西明寺 永井みよ  
千戸 宮谷ふさ子

宇多喜代子 選

夏落葉掃かれてありぬ寿貞の忌  
苔清水西行庵は奥の奥  
安場 田端昭子  
西野登志子  
唐さびのひげ青青と晴れ渡る  
岩倉 西村八洲子

岡崎光魚 選

蝸や重き引戸の女人堂  
炎帝や伊賀の紅花朝を摘む  
真泥 上田幸子  
西明寺 永井みよ  
蟬涼し伊賀組紐に芭蕉の句  
鳥ヶ原 町中和子  
滝音や地凶の道祖神の見当らず  
緑ヶ丘南町 松本ちい  
沖 高橋久美

小澤實 選

筒鳥やお斎嶺の靄深きより  
大雨止み戸口の棧に蝸牛  
四十九町 奥山公世  
鹿垣のひとときは高し袋谷  
緑ヶ丘南町 谷本まさ子

鍵和田柚子 選

夏の夜や銀の器のスープ澄み  
寄る辺なき賽の河原の糸蜻蛉  
西山 奥谷かち子  
森寺 喜多柚子  
窯焚きの記帳ぎつしり青葉木菟  
柘植町 浜地和恵  
ワイン煮の肉やわらかや造り滝  
上野愛宕町 服部和子

金子兜太 選

祖母の焼く木の芽田楽婚約日  
倉田紘文 選  
中馬野 中森里江

倉田紘文 選

廻廊を下山の僧や夕牡丹  
朝日ヶ丘町 海保りつ子  
朝日ヶ丘町 山下文子

塩田数柑子 選

蕎麦の花古き都の在りし村  
宿疾の夫の介護に梅雨疎む  
東高倉 安本穂花  
馬田 森本禾穂

棚山波朗 選

蕉翁の寺に晴れゆく夏の霧  
夕空へ蜻蛉群れ翔つ伊賀の奥  
平田 福山良子  
山畑 山下久美  
峰雲の影が影追ふ芒原  
真泥 上田幸子  
白藤の名の滝懸かる翁道  
三田 西田尚子  
遠足の児等の困めり翁句碑  
柘植町 富山文夫  
かなかなや仏師の縁の膠皿  
柘植町 澤井とき子  
十葉干す忍者の裔の門構へ  
柘植町 桑原智代美  
梅花藻の咲きつく里曲水豊か  
柘植町 服部登紀子  
蛇の目傘後姿の涼しかり  
朝屋 前田道子

西村和子 選

助炭して茶の稽古待つ奥座敷  
雁行の空美しき伊賀盆地  
真泥 上田幸子  
海保貴代二  
蟻穴を出て太陽を背負ひたる  
猪田 中井康子

長谷川權 選

一匹の蟬が鳴くとは思へざる  
神かげに乘せてやりたや虫送り  
西高倉 東山則子  
高山 山島勝年

星野椿 選

風よりも高きに朴の花見上ぐ  
山風に勝るものなし夏座敷  
印代 森中幸枝  
坂之下 松井和子  
これ程の蓮を咲かせて寺静か  
佐那具町 子日康子  
渦潮の風通る部屋夏料理  
上野桑町 坂森甲子  
山鉾を見上ぐる父の肩車  
上野丸之内 大仲範子  
吊忍水をもたらいて風を産む  
緑ヶ丘西町 瀧野政信  
夾竹桃燃へて近づく百ヶ日  
下郡 中田倭文子  
万緑や俳聖殿の佇まひ  
西山 岡田節

正木ゆう子 選

注連縄の粗きこそよし部落神  
三田 乾重勝

三村純也 選

山頂を目指す朝の夏炉混む  
緑ヶ丘南町 永井二紗子  
山畑 北村みち  
山畑 北村みち  
汗握りしめて吊橋渡りけり  
山畑 北村みち  
箒持ちチャンバラする子夏休  
上野西大手町 前出公子

宮田正和 選

變換の文字を定めて涼しかり  
七月や真白き足袋に糊を濃く  
馬場 小倉秋子  
石河宏子  
潜くたが離れてゆきぬ鵜つがひ  
柘植町 服部登紀子  
少年の声よく通る夏野かな  
上野丸之内 竹岡英子  
水見えぬままに水音秋澄めり  
山畑 米野てるみ  
糸蜻蛉揺れて草葉に溶けるたり  
柘植町 岡島千秋  
少年のひかがみの泥夏に入る  
桐ヶ丘 坂石佳音  
穂袋に稲育ち初め夏旺ん  
猪田 福井伶子  
湖へ向日葵畑幾つ越え  
柘植町 橋本秀子  
谷渡る雲の迅さや今朝の秋  
山畑 山下久美  
恵那山に厚き雲出づさくらんば  
柘植町 外山依子

連句の部 入選

半歌仙『月ぞしるべ』の巻 伊賀市 梅田とほる 捌  
月ぞしるべこなたへ入せ旅の宿 芭蕉翁  
色鮮やかな膳の枝豆 森田満枝  
爽やかさ鬣肩力士の若からん 森本欣秀  
元氣つ子らの夢は壮大 町野正子  
抜き足の小鷺引きつれ代掻機 山村としお  
少し酒たしなむ天女艶めきて とほる  
フェイスブックにいいね！連発 満枝  
嬉しさは秘めた心を射抜かれて 欣秀  
夜更けの電話時差ぼけかしら 正子  
球界の師弟受賞にドーム湧く としお  
株乱高下一喜一憂 とほる  
鍵屋の辻月影青く虎落笛 満枝  
吐く息白く伝令が行く 欣秀  
実績を踏みしめ八十路エベレスト 正子  
彼岸法会への鳴りつづく鈴 としお  
屋形船川面明りの花に酔う とほる  
緋の毛氈に草餅の皿 満枝  
平成二十五年六月十五日 満尾  
伊賀上野絵手紙いろは アトリエ